（様式第1号）

研究No.（記載不要）	17 －文学－ 12

平成17年度配分　研究成果の概要

研究名	文化政策学部の教育目標とカリキュラムの再構成				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長 特別研究費　1,214　千円				
研究者氏名（代表者）	学部名	学科名	職	氏　名	共同研究の場合の分担
	文化政策学部	国際文化学科	教授	山本幸司	
共同研究者	同　上	国際文化学科	助教授	岡田建志	
	同　上	同　上	専任講師	永井敦子	
	同　上	文化政策学科	助教授	野村卓志	
	同　上	同　上	助教授	田中　啓	
	同　上	芸術文化学科	助教授	谷川真美	
	同　上	同　上	専任講師	小岩信治	

発表の方法（予定で可）	1 紀　要	号　数	第　　号（　年　月発行）
	2 学会等での発表 学会等名：	発表日（発表予定日）	平成　年　月　日
	3 その他 発表の方法： 文化政策学部の全教員に配布	発表日	平成18 年6 月

注：配分を受けた翌年度の6月末までに提出

（研究の目的等）

2008 年度以降に実施される予定の新々カリキュラムに向けて、学部・学科の理念を再検討すると共に、時代の要請に応えるカリキュラム内容に改めるべく、文化政策学部各学科の現行カリキュラムを全面的に再検討する。

（研究の実施方法等）

まずカリキュラムの内容は単一の学科のみによる検討・改編では対処しきれない問題が多いことを考慮し、各学科より 2 名の教員を選出して、学科横断的に検討することとした。

2005 年 4 月より 2006 年 1 月までの期間に、全10回にわたる検討会を開き、かつ検討会の間にはワーキング・グループによる個別作業を継続的に行なった。

具体的には前半の検討会では、体系別に区分した問題点について、おおむね3つのW・Gを編成し、各W・Gによる資料収集・分析報告を基に課題別に討論を行い、その結果をさらに再編成したW・Gによって検討するという作業を繰り返した。

後半に入って、それまでの討議内容を総括すると共に、改めて全体として取り上げるべき問題点を整理し、再度W・Gを編成して報告書原案を分担執筆。最終段階では各報告書原案を全体で討論し、その結果を集約して最終報告書を作成・承認した。

（得られた成果等）

各学科それぞれのカリキュラムに内在する問題点の包括的検討を行なった結果、新々カリキュラムにおいて修正すべき点が明らかとなった。また各学科の分担報告の過程において、各学科固有の事情に関して相互理解が深まり、カリキュラム改革において共同で取り組むべき課題と、各学科独自に取り組むべき課題との分別が可能となった。

さらにあくまでも特別研究という枠組で行なわれた作業であって、そのまま実施に移すためのプログラムの作成が要求されているわけではないという事情を、むしろ積極的に活用し、実現の可能性をあえて顧慮せずに、試論的に踏み込んだ提言を行なうことができた。